

SSKU YKRふあみりー通信

◇2018年12月号 No. 74◇
編集：特定非営利活動法人
全国薬物依存症者家族会連合会
〒121-0813
東京都足立区竹の塚5丁目18-9
竹の塚マンション207
TEL03-5856-4824
FAX03-5856-4827
<http://www.yakkaren.com/>

令和元年度文科省委託依存症予防教育推進事業 **9月29日(日)**

依存症予防山形教室 参加者 88名

文科省委託を受けた令和元年度依存症予防教育推進事業「依存症予防山形教室」を、9月29日山形県生涯学習センターにて開催。山形市・山形県・山形市教育委員会・山形県教育委員会・山形県養護教諭連絡協議会・山形県依存症関連問題研究会から後援を受け、山形市立中学校・県立高校や県内全保護司の方々等関係機関にチラシを配布。

当日はネット・ゲーム依存の問題に関心をもつ高校生や親子連れでの参加者や、医療・

教育・行政関係者等含め88名が参加。

多くの参加者から、「山形で開催していただきありがとうございます」「とても勉強になりました」という声が寄せられました。



福祉関係者、クリニック・保健所職員、ダルク施設長などから質問、意見次々！

まず、薬物依存当事者として登場した鶴岡ダルクの岡崎さんが、「父の暴力と浮気、両親の離婚、養父の覚せい剤使用、寂しさや孤独や怒りの中でガスから危険ドラッグに手を出したが、苦しくて辛くて。でも、やめ方を教えてくれる人は誰もいなかった。気づいたら涙が出ていた」と過酷な体験を語るとともに、何度も失敗を繰り返しながら「今、ダルクスタッフとして仲間の力を借りながら薬を使わない日々を歩んでいる」と話を結ぶ。

次に登壇したのはゲームサバイバーのMさん。「DVを受け育ち、対人恐怖で働くことも外に出ることもできず、楽しいと思ったこともない息苦しさの日々、ゲームが唯一の居場所だった」。しかし、何百時間もゲームに没頭し、階段も登れないようになり、「今度やったら、私は死ぬ。現在週6日から7日自助グループに通い、ゲームをしない日々を積み重ねている」とゲーム依存の深刻な実態を語った。

そして、薬物依存の息子さんとの壮絶なバトルの日々を経て家族会を立ち上げ、現在新潟家族

会代表を務める小西さんが、「本人に仲間が必要のように、家族にも仲間が必要。まず家族が変わること。それが本人を変える大きな力になる」と訴えた。

続いて、子どものネットリスク教育研究会本間史祥副代表が「子どものネット依存の実態」と題し、自ら中学校教諭として接している生徒と



の取り組みに触れながら、子どもたちのネット利用実態やハマる仕組みを明らかにし、そこから生み出される健康被害の危険を警告。

神奈川県立精神医療センター小林桜児専門医療部長は、「逆境体験が多いほど薬物使用リスクが増加する。怖がらせる教育、“ダメ絶対”だけでは本当に伝えたい子どもたちには伝わらない。大切にされている感じられる環境が大切」と薬物依存症について熱く講演。



そして最後に全登壇者が登壇しトークセッションが行われ、参加者との活発な意見交換が行われた。